



源太は生まれ変わり、家族に抱きかかえられている

矢巾町民劇場実行委員会(金子卓嗣会長)は2月10日、11日に「生まれ変わった若者」を上演しました。

物語の主人公は体が弱いが働き者で親孝行な若者「源太」。ある日、源太は町で商人頭「信右衛門」の娘を川の中から助け、風邪をひき、過労もたたりあの世へ旅立つ。あの世で閻魔大王から「生まれ変わり」の権利を与えられた源太だが、やり残したことがあるという再会した信右衛門に権利を譲る。源太はあの世と現世を行き来するうちに、与えられた命の大切さを学ぶ。

観客に、与えられた命の大切さを伝え、笑いあり、涙ありの心温まる劇でした。

## 町劇「生まれ変わった若者」上演 与えられた命の大切さに気づく

## まちの話題 あれこれ

身の回りに起きた出来事など、  
楽しい情報をお寄せください。

役場企画財政課  
(☎ 611-2724)



生き返った信右衛門はやり残した妻へ感謝の気持ちを伝え、肩を引き寄せる



空高く上がった炎を見つめる参加者



お互いの顔にスミをつけ合う子どもたち

城内地区に四百数十年前から伝わる奇祭「スミつけ祭り」が2月3日、煙山の実相寺(晴山弘俊住職)裏の観音堂で行われました。

祭りには町内外から約500人が参加。晴山住職らによる祈願の後、積み上げられたスギの枝に火がつけられ、夜空高く上がった炎の勢いが弱まるよいよスタート。参加者は、互いの顔に炭をつけ合い、祭りの御利益である一年間の無病息災を祈願するとともに、互いの真っ黒な顔を見て笑い、一年の幸せを願いました。

なお、祭りの様子をおさめた写真展示を3月1日から役場で開催。

## 大盛況の奇祭「スミつけ祭り」 真っ黒な顔で無病息災を祈願



### 矢巾温泉郷でスノーフェスティバル

矢巾温泉振興会では、2月11日に矢巾温泉郷内でスノーフェスティバル「雪だるまコンテスト」を開催し、約70人が参加しました。

参加者は絵の具で色を付けるなどさまざまな工夫をして雪だるまを作っていました。



### 矢巾っ子のさらなる飛躍を祈る

矢巾町児童生徒顕彰メダル授与式が2月14日、田園ホールで行われました。顕彰メダルは各分野で優秀な成績を収めた個人や団体あわせて216人の児童生徒に、高橋町長がメダルを授与して栄誉をたたえました。



### 防犯・交通安全を学んだ園児たち

紫波地区地域安全推進協議会と紫波警察署は、2月16日に来年度小学1年生になる園児を対象に「防犯・交通安全教室」を開催。

園児たちは寸劇を通じて、防犯と交通安全の知識を身に付けていました。



グループワークで上田氏のアドバイスを聞く矢巾北中の生徒

財務省が主催する財務教育プログラムが1月29日に矢巾北中学校(西郷晃校長)で開催されました。3年生の生徒約130人は、国の将来を考え、判断できる知識を身に付けるためアクティブ・ラーニングを使って国の財政について学びました。

財務省大臣官房地方課上田稔市氏(としいち)が講師となり、生徒たちは公共サービスに係る経費や国の歳入歳出予算、税金の種類などの講義を受けました。

グループワークでは、タブレットを使い、日本村の予算を編成しました。山崎裕仁(ゆしん)さんは「税金を村のためにどう使うか考えるのは難しかった」と感想を述べました。

## 国の財政について学ぶ 矢巾北中で財政教育プログラム



握手をする晴山社長(写真左)と高橋町長

株式会社ラヂオもりおか(晴山登代表のぼる取締役社長)と町は1月31日、安全安心のまちづくりに向けて、災害被害の軽減と町民生活の安全確保を目的に「災害時における災害情報等の放送に関する協定」を締結しました。

協定内容は防災ラジオを活用して、緊急時は町民に災害や国民保護に関する情報を自動起動で割り込み放送することや災害時に同社の放送局を臨時で役場に開設できること、平時は町民の自発的な情報収集を促すために、行政とまちづくりの情報を放送することなどが盛り込まれています。

## 防災ラジオで情報発信 ラヂオもりと町が災害協定締結